

極深リムで圧巻フォーム! スクーター太足カスタム!

極太ホイールとワイドタイヤの装着によって生まれるファット感たっぷりの太足フォームは、4MINI だけでなくスクーターでも大注目! スクーターの場合はエンジンへのタイヤの干渉や、専用パーツの少なさから決して手軽とは言えないのが現状だ。しかし、ここで紹介する3台のように高い技術とアイデアによって太足カスタムを具現化する事も可能なのだ!

太足スクーター海外事情

太足デイスがさりげなく人気上昇中
キースラー製の5Jはコアの定番
Owner: kurmanski Daniel (21歳ドイツ)
Machine: Aerox (YAMAHA)

日本ほど太足系カスタムは流行っていないものの、改造ファンから愛用されているのがエアロックス50用の5J-13インチホイール。キースラーレーシング(ドイツ)から発売されており、まさにファット系カスタムの必需品とも言える。購入はドイツの販売店、スクーターアタック (<http://www.scooter-attack.com/index2.php?lang=e>) でも可能。



▲もともとデザイン性の高いエアロックスのホイールだけに、太足+メッキとなればドレスアップ効果も激高!

海外 TOPICS!



フロントの太足はどうなの?

いまや10J以上も存在する太足スクーターカスタムだが、フロントも太足化することでより迫力のあるフォームを獲得できる。ZOOMERやBW'S100などのワイドホイールの流用や、4MINI用ホイールをワンオフのハブによって装着したりと、求めるデザインや太足度に合わせて様々な手法が生み出されている。しかし、むやみな太足化は操安性に大きく影響する箇所だけに注意したい。

12インチ化も可能!

ライブDio-ZXにエイブ用社外ホイールを装着できるキット(1万9800円)で、ベアリングやオイルシールも装着済。モンキー用ホイールが流用できるタイプも近日発売予定。■DIO ZX用フロントDISKハブキット ◎ミキビデザイン ☎045-952-3923



4MINI用ホイールを流用!

現在は廃盤のドイツ製モンキー用ブレンホイール(3.5J-10)を加工装着。タイヤサイズを100/80-10(メツラー製M7TEEN)とし、肉厚にすることで圧巻のフォームを実現している。



ZOOMER
■OWNER:
スマ魂Toshi

①リヤタイヤのセンターを出すために左にオフセットされたフレーム側のリヤショックマウント。クランクケース左下に見えるフィルタは駆動系の冷却用だ。リヤタイヤサイズは205/30-12。②フロントフォークはストロークを10mm残してローダウン加工。③タイヤのセンター出しのためにエンジンマウントを加工してオフセット。④ホイールとの干渉を避けるためオフセット加工されたチャンパー。



大径ホイール採用で太足度をアップ!

赤を基調に美麗カスタムされた太足ズーマーは、前後12インチホイールを採用してインチアップ。太足でありながらスポーティー感も演出することに成功している。120mmロングとなったホイールベースと前後ローダウンショックを採用したことで太足感がさらに強調されている点も見逃せないポイントとなっている。

▲スマートなボディのライブDio-ZXに8Jものワイドホイールを履き、迫力のリヤビューを演出。エンジンを50mm左側へオフセットすることによってリヤタイヤのセンター出しが行われている。RSヨコタ製Gアーク用チャンパーで後ろからみた左右のバランス感も◎。

ライブDio-ZX×リード100
■OWNER: Day Hi corporation ☎0493-71-3101
**8Jホイール+205/30-10
タイヤで超ファットなリヤ周り!**

フロントにエイブ用の3.5Jホイール、リヤにバギー用の8Jホイールを履き、スポーティーなスタイルのライブDio-ZXがファットなスタイルに生まれ変わった。エンジンはリード100に換装され、4ポットキャリブやウエーブディスクの採用によって制動力も強化。普段のアシとして十分使えるよう考慮されている。

フォーム! ファット!



BW'S100
■OWNER: 青山

カーニヴァーに勤務するオーナー自らかべイントしたBW'S100。極太のバギー用リヤホイールを際立たせる為に、カチ上がり気味の取り付け角度となるリアライズ製ジョットガンチャンパーをチョイス。

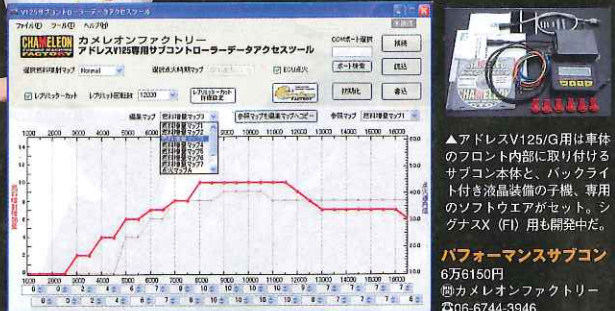
BW'S100に9Jホイールを履く!

キットやパーツとしても販売されるなど4MINI ならではの定番となっているワイドホイールを使用する太足カスタム。スクーターではリヤの大径化が人気を集めるが、そのファットなフォームをスクーターで実現しようとする、市販キットパーツが少ないためどうしてもワンオフ加工が必要となり、一気にハードルが上がってしまう。そんな壁を越えて極上の太足フォームをゲットした写真のBW'S100は、太足カスタムに定評のあるファンテック(☎03・5378・8803)によって9J極太四輪バギー用ホイールをオリジナルハブを使用しインストール。リヤショックやエンジンハブのオフセットをはじめ多くの部分がワンオフ加工され、200mmのロンホイ化と適度なローダウンも相まって、いそいでいない太足スクーターを完璧にメイク。スクーターでしか表現できないこのフォームは、今後も注目度が高まるカスタム手法なのでは間違いないだろう!

唯一無二の存在感を手に入れる

難しくなったセッティングが自分でできるサブコン!

コンピューターがガソリンの噴出量を決定するFI。アドレスV125/GはこのFIを採用しており、キャブレター車のようにジェット交換などでの燃料調整ができないってわけ。しかし、このパフォーマンスサブコンを使えば、燃調に加え、点火時期の変更なども簡単に任意の設定ができるんです。パソコンの画面上でグラフを操作すれば、排気量アップやマフラー交換などの条件にも最適なセッティングが楽しめるアイテムというわけ!



▲専用ソフトを起動させたパソコンの画面。一番下のノーマル燃料量からグラフを上げた分だけ増量できる仕組み。500回転毎に細かく制御できて、増量幅は15段階。また、このたびのバージョンアップでエンジン回転のピークホールド機能が追加。旧バージョンでもメーカーに送付すれば無料でアップデート可能だ!

こんなコトができちゃう!

本体には独自のCDIも内蔵されていて、好みの点火MAPを作ることができる特典も。CDIの交換費用や作業の手間も省けるのだ!

- 500回転毎の噴射燃料の設定
- 500回転毎の点火時期の設定
- リミッターの解除&任意設定
- 子機には燃調7つ点火4つのデータを保存可能
- 保存データはボタンひとつで切り替え可能



▲写真はパフォーマンスサブコンを装着して試走するワイルドライオン(20429-24-0405)の中村氏。開発段階からテストなどに参加しており、この日はノーマルマシンへの装着でサーキット秋ヶ瀬でのラップタイムが0.1秒ほど上がったという。

リヤホイールに四輪用の5.5Jワイドホイールを装備し、迫力のスタイリングを完成させたアドレスV125Gが登場した。このホイールを装着するために、ワンオフのエンジンハンガーで約200mmホイールベースを延長し、さらに前後サスにエアサスを組み込むことで低く長いフォルムも獲得! ビッグスクのカスタムなども手掛けるファンテック(☎03-5378-8803)によるカスタムだが、アドレスV125Gカスタムの新たな提案ともいえる仕上がりを実現した1台だ。

アドレスV125
CUSTOM
NEWS

5.5Jワイドホイール エアサスの合わせ技!



ライディングアイテム CLOSE UP

さまざまなタイプが揃うヘルメット。その中でも、今年はグラフィックに凝ったモデルが流行りそう!? シンプル派のみならずもチャレンジしてみては?

OGK FF-5 SCREAM
4万5150円
☎OGKカブト
☎06-6747-8031

Arai RX-7 RR5 HOPKINS
6万3000円
☎アライヘルメット
☎048-641-3825

ICON HOOLIGAN MAINFRAME
3万9880円
☎エイエスエー
☎042-505-8275

SHOEI X-9 CASTER
5万4000円
☎SHOEI ☎03-5688-5180

SUOMY
イカストリーム/トスランド
8万7150円
☎エイエスエー
☎078-747-5255



Scooterism

OWNER: 柴田賢太
エアサスで実現した極限のローダウンスタイル

深いリム幅に注目!
リムの深さが強調されるリヤホイールは、軽自動車用のデッドストックものを流用したもの。ワンオフのエンジンハンガーを使用して、エンジンを左に約30mmオフセット搭載することでセンターを出し、このホイールの装着に成功している。

落ち着いたカラーリングと迫力のパーツ!
▶ボディーはガンメタ系のツートン、クランクケースはブラックでペイントすることで迫力のパーツ類を引き立てることに成功している。マフラーはファンテックによるチタン製のワンオフもの。ミラーやサイドスタンドもワンオフで手曲げされたタイプをセットしている。

●リヤにはシムランS1(130x70x10)タイヤを合わせる。引つ張り音で装着することでホイールの存在を強調。●エンジン用や駆動系ケースはブラックでペイントすることで落ち着いた雰囲気を演出。●エアサスはアパ製の150mmストロークタイプを装着。ワンオフのエンジンハンガーは板金製の状態を描いてエンジン周りの隙をカバーしている。エアサス用は延長したエンジンハンガー部分にセットしている。●メットインスペースは通常通り使用できるのがポイント。●リアボックスにはエアサス用のコンプレックスライティングスイッチをセット。●フロントにはメットインのホールを補って、KN全量製のキャリアはワンオフのサポートタイヤを装着している。

■PHOTO: アミちゃん
■MACHINE: FreeWay250
■OWNER: 5-めん修業僧
■製作協力: FunTech/カラフル商会

ボディ固定のサイレンサーや
205/30-12サイズの極太タイヤが迫力!

リヤ 8.5J 超個性 極上仕上げの フリーウェイ

▲リヤショックは商品名など不明のサブタンク付き。本来のテールランプ部分はスムージング加工し、ムーニーテールランプ用の穴を新規に追加。駆動系ケースはバフ仕上げで光沢を出し、前後ローダウンに対応するサイドスタンドはノーマルをカットして塗装仕上げとなっている。

7年前、フュージョンなどのビッグスクーターが流行っていたころ、「人とは違うバイクに乗りたい」という動機で購入したフリーウェイ。その後は現在に至るまで、様々な人の協力を得て、今の極上カスタムが完成したという。ちなみに外見の迫力や独創性は見てのとおりだが、こんなスペシャルなカスタマイズなのに、毎日20kmほどの通勤を4年間も続けているというから「美しさの維持」という意味でも、このマシンは驚きのレベルにあると言えるだろう。

当初、ローダウンが当たり前のころ、あえて車高を上げ、ダンロップ製K960のゴツいブロックパターンにCRF450用サイレンサーを装着し、オフ仕様を意識してカスタマイズしたこともあったと言いますが、あるとき極太タイヤを装着しているスクーターを見て、「車体が小柄なので、迫力が出るだろう」という想像のもと、今に続くカスタムが開始されたという。

極太タイヤの装着には、スカイウェイブのエンジン換装も検討されたが、「それではフリーウェイではなくなってしまう」という理由でエンジンスワップは断念。「コレなら付けたい」と直感的に感じたというバギー用の8.5Jホイールにも出会い、205/30-12という超扁平タイヤと組み合わせて装着することにした。

車高はフロント120mm、リヤ150mm以上ローダウンし、極太タイヤのセンター出しは、ワンオフのエンジンハンガーとリヤサスのブラケット加工により実現。このエンジンハンガーによりホイールベースも150mm延長され、全体のバランスを引き立てている。

また、エンジンがスイングアームのように動くスクーターなのに、アクラポビッチ製ヘキサゴナルサイレンサーは車体にマウントされるが、これはフレキシブルパイプの採用により実現。バーハンススタイルやテールレンズの処理、車体色やシートのバランスなどなど、細部にまで気配りされた仕上げが「かわいい上半身とミッドルな下半身」という魅力タップリな外見を作り出している。

▲アップタイプのワンオフマフラーにより、4輪バギー用の8.5Jホイールが強調される演出が施される。表面のみ張り替えられたシートやワンオフ製作されたタンデムバーも効果的なアクセントとなる。ノーマルは車体右側にもスイングアームのパーツが存在するが、これは取り外して外見の見栄えを重視。

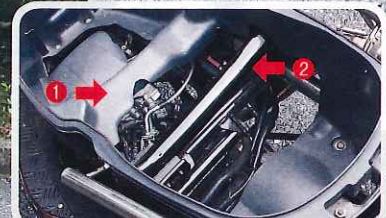


▲150mm以上のローダウンが施されたリヤビューは、205/30-12サイズという破格のリヤタイヤと相まって迫力。サイレンサーはボディカウルに密着するように配されるが、フレキシブルパイプの採用により、ボディカウル側に固定されているのでクリアランスの確保は必要ないのだ。

▲120mm以上のローダウンが施されたフロント周り。4.5インチのベーツライトをデュアルで装着し、HID8000ケルビンを採用。フロントのウインカーはダクト内に収納。アチェルピス製のハンドガードもワンポイントに効果的だ。



▲部分の下にノーマルのエンジンマウント用フレームが存在するが、それは切除し、150mm後方に移動した。部分のワンオフフレームにより強度を確保。前後サスペンションやフレームなど、安全性に関わる部分には細心の注意が払われる設計となっている。



周囲のライバルに一步も二歩もリードできるカスタムはコレだ
闇夜で際立つ光モノカスタムがアツイ!!



魅せる電飾★まるわかりガイド

電飾特集

LED、ストロボ、EL、HIDほか

動物や昆虫たちは本能的に光へ群がる性質があるようです。私たちにも夜になると光や明かりのあるところが好きですよね？ ということで今回は、ビッグスクーターの人気カスタムジャンル「電飾カスタム」を皆さんにご紹介します!! 夜の存在を際立たせて注目を浴びたい方、安全性の向上を図りたい方などなど、ぜひトライしてみよう!!

Specification MF08 FORZA

●エアロパーツ…フロントフェイス&サイドカウル&リアスポイラー=MAD SPEED ●吸排気…FUNTECHワンオフマフラー(VEGAスポーツサイレンサー)、エアクリナー=DAYTONA加工 ●ハンドルまわり…ハンドルバー=Ovalリクライドバー、グリップ=DAYTONAビレットクロームグリップ、スイッチボックス=HMJ、ミラー=TANAXバレンクラシック ●足まわり…フロントサスペンション=MADHOPPERエアサス、リアサスペンション=ロンホイ(180mm)十ローダウンサスペンション(マジエ用サス加工=ホリス工業)、スイングアーム=メッキ、メッキブリーカーカバー ●ブレーキまわり…前後ブレーキキャリパー=メッキ加工、マスターシリンダー=前後NISSIN別体(ワンオフステー+メッキ加工) ●電装…ヘッドライト=PIAA HID、フロントウィンカー=自作クリア化、テールランプ=プラストマエアヨロビアンテール(クリア) ●その他…シート張替え(低反発入り)、インナーペイント、パーキングブレーキ=FREEDOM、フレーム加工=FUN TECH

●Special Thanks MAD SPEED、FUN TECH、佐藤鍍金工業、橋木、てのり、Play Fully(敬称略)



Owner ナルミ

埼玉県は所沢に住む22歳。バイクで初めての遠出はお台場で、「超速い」と思っていたのもつかの間、栃木県のMAD SPEEDまでも自走で行ってしまう超行動派。スクーター以外にもFMX(フリースタイルモトクロス)にハマっていて、香川まで観戦に行ってしまうほど…のめり込んだらトントンな性格である。

「MF06フォルツァで、マッドスピードのエアロがカッコいいなって思ったんです。だからきつと08フォルツァでもかっこいいはず!!」と思っただけで約3年待ちました。「笑」これには、思い込みだけで良く待てましたね…とただ感心してしまっただけ。このようなマイナスをプラスに変えてしまうポジティブさがあってこそ、このスタイルなのだろうし、彼女の実用性の結晶として、この仕様になったに違いない。こんなカスタムの仕方、見た目以上に利にかなっていると考えさせられたし、何より乗っている姿はお気に入りの洋服のように彼女にマッチする。いや、むしろ彼女がコレに乗るから文句なしにカッコイイのだ!といったほうが良さそう。

そしてこれだけカスタムをしても、実は通勤用。彼女は毎日このフォルツァで通勤している。ビッグスクーターに乗ることで得た多くの仲間達から「ここまでバイク好きなオンナは見えたことねえ」と言われるほど、フォルツァへの愛は深いものの、彼女は「フォルツァが恋人です」なんてカワイくないことを言ったりはしない。「彼女が欲しいな」とも思っているし、フアツションも気を抜かない。ただ他の女の子よりも深くスクーターの魅力にハマってしまっているだけなのである。

フォルツァを手に入れ、行動範囲を格段に広げた彼女は、ついに憧れていた「街を走るスクーター乗り」の一人になった。強く思えば夢は叶うなんて言われがちだけど、彼女はまさにその通り、今、憧れていたステイジでフォルツァを走らせている。

ゆく、仲間もない中で、必至に雑誌を読み知識を蓄える。とにかく男勝りの根性のある彼女それもそのはず、スボ魂一直線のバレーボールを小学校から現在も続けている。そんな明るくひたむきな性格から、次第にビッグスクーター乗りの友達が増えてゆく。「スクーターで遊ぶときは、パーツ屋さんとかバイク屋さんとかに行きます」あまり女の子の定番の遊びではないねえ…なんて笑ってしまったが、彼女は本気で、バイク友達と愛車を眺めながら話すことが何より楽しいとも思っている。

そしてこんなハナシもある。「スクーターで遊ぶときは、パーツ屋さんとかバイク屋さんとかに行きます」あまり女の子の定番の遊びではないねえ…なんて笑ってしまったが、彼女は本気で、バイク友達と愛車を眺めながら話すことが何より楽しいとも思っている。

このように、カスタムをし始めた頃の彼女にとって、カスタムは自分に合わせるための手段。夜の交差点でクルマにぶつかりそうになった時にヘッドライトがもつと明るければ気が付いたらヘッドライトがもつとということ、HIDを装着するといった感じだ。もちろん自分に合わせるというカスタムは、「手が届きにくいからハンドルを変えるとか、さらに足つきを良くするためにシートのアング拔きをする」といった具合に進んで

「高校生の時、街を走っているビッグスクーターにすこく憧れていたんです。後ろでもいいから乗ってみたいなって。」今回のオーナーであるナルミさんは、そんな風にビッグスクーターを見ていた。でも、まわりも高校生しかも女の子ばかり。だとするとビッグスクーターに乗っている人が近くにいないと自分が珍しい。でもどうしても乗ってみたい。その思いは彼女をすんなりと行動に移してゆく。

高校を卒業し進路選択に悩む中、彼女のママにはフォルツァしかなかった。当時はギア機能の付いたZはまだ世に無く、Xが発売されるというニュースが出回った時期。フォルツァはまだ街を走っていないのを目撃したというわけだ。そのフォルツァに魅了された彼女は、就職をしてお金を貯めてフォルツァに絶対に乗るという未来像が強く思い描かれていた。

一般的なオーナーと同じく、購入を決定すると、実車を見るためにバイク屋へ行く。そこでその後の彼女のカスタムを左右する転機が訪れたのだ。それは、足が届かないということ。身長は150cm、小柄な彼女にとって、大きな車体を扱うには足が付くか否かは大きな問題。でも、フォルツァを買うと決めたからには譲れない。一時は、根性で乗ることも決意したが、購入後は、ローダウンという方法があることを知り、まだ当時少なかったフォルツァのローダウンサスで、新たにダウン量を減らせるタイプが出ることにサスを変えてゆき、車高を落としていったそう。かっこよさを求めたローダウンというよりは、むしろ自分の体系に合わせた「自分仕様」。そんな自分でも乗れる一台を作るため、彼女とフォルツァの生活が始まったのだ。

NARUMI HONDA MF08 FORZA



これは購入して半年経った状態で撮影したそう。現在の面影が全くないライトカスタム。しかし体形と経験によりカスタムは進化してきたのだ。

マフラーは流行ショートサイレンサー。エキパイはロンホイ後のスペースを活かして、ヘッドの下で巻かれた。FUN TECH製。



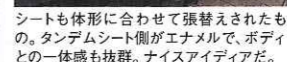
ハンドルまわりもメッキで統一。体形に合わせてパーはフルバックタイプをチョイスした。ハンドル下のスイッチはオーディオ用。



リアサスペンションはマジエステイ用。下側のサスの取り付け幅に互換性は無いが、ブラケットを加工することでクリアしている。



シートも体形に合わせて張替えされたもの。タンデムシート側がエナメルで、ボディとの一体感も抜群。ナイスアイデアだ。



足まわりも美しいメッキで統一されている。現在はフロントサスペンションのみエアサス。ゆくゆくはリアも…と考えているそうだけど、一気にカスタムをしないのも楽しみ方の一つといえるだろう。

発売されるまで待ち続けた!というMAD SPEEDのフロントフェイスとサイドカウル。途中、待ちきれなくて他のエアロを付けた時期もあったそうだが、発売と同時に取り付けをした。当然第一号車。

「デートでもバイクのパーツ屋さんに行っちゃうかも」(笑)

Photo/奥村純一 Text/金田亮

Cutting EDGE

NARUMI X HONDA MF08 FORZA

ビッグスクーターに乗り始めたきっかけは、人それぞれ。
様々な思いや憧れがあって乗り始めたことだろう。
カスタムもそうだ。その思い描いた自分とスクーターになっているか？
今回は着々と自分仕様を買い進めていった一人のオーナーを紹介しよう。



自
分
仕
様
Oneself
specification

Owner ふじ
 埼玉県出身の27歳。会社員の傍ら、旧マジエ一筋でカスタムを続けて5年。現在は二台目となる。昨年夏には旧マジエミーティングを仕切っている。かつては70型スーパーや92型レジンにも乗っていた。本来はD1ドリル好き。



カスタムコンテスト
 ●旧マジエのネットワークや情報は十分ある中で、あのカスタムで得たものは？
 「実際にエアサス着地というのは(関東にいたら)どこに行っても見れるので、それより、会いたい人に会えたり、見たい車両が見れたりっていうのはありました。まさか大阪から有名な人達や車両が来るとは思って無かったし、東京の人でも知っているけど初めて会う人は多かった。凄いいバイクもいっぱいあって、会いたい人達に会えたのは嬉しかった。」



Takashi FUJIWARA 4HC Majesty R-13



Cutting
EDGE



01. 超シンプルなメーター&ハンドルまわり。大きめのピボットタコとスピードは正面に、電圧とガス計は右足元に置きスッキリ。左のスイッチBOXはマジエC用を移植し、パークリングブレーキも使用できる。オーディオはiPod以外、全て見えない位置に。
 02. ナメカタでワンオフされたバケットシート。 03. スイングアームからはマジエCを移植。エンジンはマロッシでボアアップ済み。さらに台湾製の半川キャリバーが面白い。そしてなんとエンジンの側面からエンジンオイルとGPサイレンサーが美しい。排気焼けカウルガードのブラックカーボンもスポーティーだ。
 04. そのエキゾースト、チタンの輪切り溶接はファンテックの作品。地面に顔を付けなければ見えない位置でトクログを巻く。サイレンサーのエンド角度なども絶妙。
 05. プーリー側はローダウンのツラ位置以外普通に見えるが... 06. 中には吸気用パイプが。ここをカスタムで見ると、正面至難だ。さらに見えない所全面に耐熱貼りもされている。LEDベルトも選んでいるが、説明されないとまずわからない洗練の所以。 07. フェイスはMRCチョップフェイスを加工。このワンオフは鮮烈な印象の蛍光グリーンを塗ったカラフル商会が行った。ヘッドライトはメルセデスCクラスの純正プロジェクト。 08. プレークは280φローターにニッセン4ポット。ファンダーはファブレス製を入れてある。 09. ウンカーなどが前後自作。リアパネルがトップモスト製。タイヤとカウルのツラにこだわった車高は、KN企画の原付二種用バネサスで、このままの車高で走れるよう調整されている。

Specification 4HC Majesty
 ●給排気/マフラー=ワンオフチャンEXサイレンサー(FUNTECH)、サイレンサー=ワンオフ輪切り(FUNTECH)、●エアロパーツ/フェイス=MRCチョップフェイス・ワンオフ加工(カラフル商会)、フンダー=(FABLOUS)、スポイラー=(TOPMOST)、●ハンドルまわり/ハンドルバー=フラットバー(HURRICANE)、メーター=ピボットタコメーター他、スイッチBOX自作漢字仕様、●足回り/Fフォーーク=65ミリダウン、Rサス=KN企画、FRタイヤ=F:HOOP 110-70-12(BRIDGESTONE)、Rタイヤ:165-70-12、Rホイール&スイングアーム=MajestyC流用、●ブレーキ系/FRキャリバー=F:4POT(NISSIN)、R:2POT(宇川)、FRローター=F:280φ、R: MajestyC流用、マスターシリンダー=TMAX流用、ホース類=ブラックメッシュ(SWAGELINE)、●駆動系/プーリー=(MALOSSI)、●電装系/ヘッドライト=Mercedes-Benz C-Class純正プロジェクト、フウinker-Rテールユニット=自作LED化、LEDベルト=薄型LED緑(百鬼)、オーディオ&スピーカー=iPod、BOSEX2+SATELLITE2+ウーファー=合計7発、●塗装/外装=蛍光緑(カラフル商会)、●その他/シート=ワンオフバケット(ナメカタ)、機関系=シリンダー&ピストン(MALOSSI)、フレーム=(FUNTECH)、カーボンバンパーガード自作、ステッカー=自作ほか。

「とにかくコレしかなかったんです」

カスタムコンテストではクラスを問わず、圧倒的に幅をきかせたのがマジエC。そんな中、1次審査を通過した1台だけ旧マジエCのエントリーを果たしたオーナーがいた。そんな藤原さん(ふじ)は「旧車と向き直ってきたのだろうか?」

「あれ乗ってもう5年位、新しいマジエには全く惹かれなかったんです。ふじと旧マジエが最初に出会ったときは、当時バイトしてたカラリンスタンドの横に、またまたまたたというだけ、後々に彼女乗せるなら乗なほうがというのと、バイクに全くコダワリが無かったという、カタムとも無縁の状況。それでも最初の頃は電飾やカウルをDIYでやって、お店行ってこれ使えるのかなとかいう感じで、まあやっていっただろとか、スバトラのメガホンくらい。」

5年前というトランススクーターも創刊間もない頃こそライトカスタムで十分な時代。しばらくは劇的には進行せず、コツコツと自分でやっていた。

「シヨブに預けるっていうのが出来なくて。とにかくコレしかなかったんで。」

フルカスタムに積極的ではなかったのは「日常の足」という大きな理由もあったらしい。

そんな彼の旧マジエ、今や単なる足でも無いはず。カコンに出るほどのカスタムにするきっかけは「一体どこから?」

「まずまわりにスクーター乗ってる人がゼロだったので、ちょっと見てみたなという感じで、チームにも顔出ししたり始めた頃がありました。既に絶版中古、メンテナンスも含め、必然的に情報を求めた。そういう状況から、積極的にカスタム車を見せたい影響は少なくなった。」

「実際にエアサスとか見ると、あの隙間の無い詰まった感じが良く見えたんです。クルマで言うところのエンジンとタイヤの隙間みたいな部分とか、でも走ってる時にそのボディのラインは変えたくなかったです。」

そこで自分が良いと思うものを作りたくなってきた。

「他の有名な旧マジエも良いとは思っただけど、僕の中ではちょっと違ってた。」

徐々に今の形へハマり出さ。さあ、あるまじい

「でもマジエC乗ってる人に『この旧マジエ、ハイキング付いてるんだぜ』って話でも、全然意味分かんないと思う(笑)」。確かに、現行ではわからない苦労が旧マジエにはあるよ。

「乗ってて、大丈夫かなというのはいつも思いますが、だからロンホイしても、シートは潰したくなかった。あの中に工具とかオイルとか全部入れこんで、なんかトラブルあった時に不安じゃないですか。」

全平自力で走らせるための大前提に繋がっている。

「そうかも、車高は低くしてると、あれが動かなく、僕たちにも行けないから、エンジン、ハンカルの動きとかもかなり勉強して時間かかってました。1時期はずっとサービスマニュアル読んでいる。」

「自分でやるやらない、キャブ変えたりとかもいらないと思うけど、あれしなきゃ、旧車でも絶対に動いてくれないとホント困るんですよ(笑)。」

「自分以上の事をやらない、キャブ変えたりとかもいらないと思うけど、あれしなきゃ、旧車でも絶対に動いてくれないとホント困るんですよ(笑)。」

「自分でやるやらない、キャブ変えたりとかもいらないと思うけど、あれしなきゃ、旧車でも絶対に動いてくれないとホント困るんですよ(笑)。」

「自分でやるやらない、キャブ変えたりとかもいらないと思うけど、あれしなきゃ、旧車でも絶対に動いてくれないとホント困るんですよ(笑)。」

旧車の挑戦

An Old Scooter Challenge

Photo/能勢博史 Text/垣野雅史

Cutting EDGE

Takashi FUJIWARA X 4HC Majesty



R-13

今となっては旧車と言える4HC (1H) マジェスティ。
後にカスタムの王道となるマジェCが出た後も、
コツコツと進化させてきた人がいる。
今月の一台は、カスタムコンテストで受賞には届かなかったものの、
パーツ選択肢が少ない旧マジェで挑戦した男にインタビュー。
そこにはどういった楽しみ方や難しさがあるのだろうか？

マシンのイメージを一新する究極のドレスアップ術、それがペイントだ。マシン全体を覆うペイントでド派手なフォルムに仕上げるのもよし、ワンポイントやラインなどのペイントを効果的にあしらうのもよし、ペイントひとつ取ってもドレスアップの可能性は無限大だ。今回は自分でペイントする際のポイントやショップによる参考価格などを踏まえつつペイントワールドを紹介していこう。キミのアイデアとセンスで、愛車とびっきりのオンリーワンに仕上げよう。

ペイント PAINT

無類の個性を獲得する近道、ペイント! 自分で塗るかショップに頼むか、求めるクオリティーは無限大!

アイボリーの淡色を ブラックで引き立てる!

グランドアクシスのストックボディをマットなアイボリーの単色で塗り、ホイールやステッカーをブラックでほぼ統一するという極上のセンスで仕上げられた1台。特筆すべきはこれが自家塗装でも十分にチャレンジできる、単色でのオールペンというところ。センス次第で極上のスタイルを獲得できるのだ。



■MACHINE:グランドアクシス
■OWNER:CS@Kuro

①シモン製スモークテールに黒のバイザーを装着。ロゴを切り抜いたバイナルとともに引き締まったリヤビューを生み出している。②なんとリヤホイールにはハヤシ製6Jホイールを加工装着。造形からくる重厚感が足周りに存在感をもたらしている。

ド派手なグラフィックで 強烈なインパクトを獲得!

タンク、テールカウル、フェンダーに描かれた赤と青のフレアパターングラフィックが強烈なインパクトを放つモンキーは、人気パーツメーカー、レーシングサービス・ゼロ (☎06-6704-0077) によるカスタム。各部に使用されるアルミパーツのカラーリングもグラフィックにあわせるなど、細かなセンスが光る1台に仕上げられている。



■MACHINE:モンキー
■OWNER:レーシングサービス・ゼロ

ド派手な2色使いで 注目を勝ち取る



■MACHINE:エアロックス
■OWNER:Mike

ド派手なゴールドのカラーリングと、インナーや随所にアクセントとして盛り込まれたブルーの配色が圧倒的なセンスを漂わせるエアロックス。これはドイツのスクーターウィークエンドで発見したマシンなんだけど、ドイツにはこのようなド派手なカラーに仕上げられたマシンがウジャウジャ。フロントカウルやテールカウルに配されたブルーのラインペイントはお手軽かつ効果的なのでぜひ参考にしたい。

**限定カラーを
有効活用するのにも
ポイントがある**

シグナスXの限定カラーは、USインナーカラーをベースにした「シグナスX エンジンハンガー」や「シグナスX ライフ」など、カラーリングもグラフィックにあわせるなど、細かなセンスが光る1台に仕上げられている。

■MACHINE:シグナスX
■OWNER:CS@ターボ

お手軽装着でワンサイズ上の威圧感を獲得! カウル加工で目を引くスタイルを生み出せ!

カウリング COWLING

マシンの印象まで変えてしまうエアロパーツの装着や、芸術的ともいえる凝ったカウル加工を施せば、ワンランク上の存在感を獲得することができるカウル系カスタム。スタイルを大きく変更できるエアロパーツはその強みは裏腹に、ボルトで留めるだけのものや両面テープで貼り付けるだけのものが多く装着も楽チン。手軽さ以上の高いドレスアップ効果が人気となっているぞ。

■MACHINE:ライブDio-ZX
■OWNER:とらぎち



エアロでエッジの効いたスタイリングを実現!

アイラインでお手軽イメージチェンジ!

ヘッドライトに貼るだけで、ヘッドライトのイメージが変わり、マシンの顔つきを一新できるお手軽アイデアパーツがアイライン (3800円)。フロントとリヤ(リヤはカウルを若干外して装着する必要あり) 合わせて3800円とかなり低価格で購入できるので、気軽に装着できるところも嬉しい。ライトカウルと同色にするもよし、写真のように別カラーで目立たせるもよし、工夫すれば楽しみ方はいろいろあるぞ。

■アイライン (3800円) ◎タローズ☎045-584-0549

①ダンガン製リヤスポイラーが威圧感たっぷりのリヤビュー。カチ上がったマフラーはダンガン製サイレンサーを流用したオリジナルだ。②ノーマルをホワイトペイントしたホイールにRPM製260mmウェーブディスクローターを装着。キャリパーはブレンボ4ポットをチョイス。③光沢のあるシルバーに、ボディにあわせてピンクがレイアウトされるシート。

■MACHINE:シグナスX
■OWNER:CS@もっくん

フロントマスクやサイドアーマー、リヤスポイラーにダンガン製を装着したキャンディーピンクのボディにより圧倒的な存在感を演出しているシグナスX。ワンオフエンジンハンガーを使用することによりホイールベースは120mm延長、DCR製フォークを装着するフロントで60mm、台湾製リヤショックによりリヤ50mmとそれぞれローダウンすることで、ボディのファット感に合わせた絶妙なバランスを生み出している。ホワイトでペイントされたインナーカウルやダグアウト製のメッキステップボードなどによるマシン全体の一体感ぜひ参考にしたい。

【注目! チェック】

保安部品を取り外しても良いレースシーンで、スクーターユーザーから絶大な人気を得ているのがベリアルサービス製レース用ライトカバー。これをストリートへ応用するユーザーも多く、ペイントやバイナルなどの合わせワザ次第では極上のライト周りを演出することが可能となる。装着は付属のビスで留めるだけでと超お手軽。〜00JOG-ZRやライブDio-ZX用は4800円、リモコンJOG-ZRは5200円となっているぞ。

■レース用ライトカバー (4800円) ◎ベリアルサービス☎072-637-5075



ライトカバーを上手く流用しよう!

【注目! チェック】



ダンガン製リヤスポイラーで魅せる重厚感

SPECIFICATION

●エアー：FUNTECH(フンテック)エアークリーナー加工 ●ヘッドライト：FUNTECH(フンテック)CBR1000RR用のアクラポヴェッチが美しくもみられた。チアリと見えるカーボン柄に並々ならぬインパクトを感じますが、2.エアロは一切取り付けていないワケではありません。以前はスクリーンレスやリネアが主流でしたが、シートスクリーンをカットしたものに代えたオールドスクールな見た目から今じゃ斬新！ ●純正のヘッドライトは、レンズにリフレクターが備わっているが、それをクリアに変更。もちろん既存のクリアレンズの市販品はないので、これはブラ板を使用して自作したものだ。DIYならではの思い入れが印象的だ。 ●4.オークションで手に入れたレバーは、そのまま取り付けると高い位置に装着されてしまうので、ボネの裏面を削ってキリギリまで低くセットできるようにした。また取り付けるのに無く、どう取り付ければいいのか？ そんなコトワリが常態されている部分だ。 ●5.ブレーキは全然こだわりが無く、むしろノーマルのガンスタでもOKというFUJISAN。この車両にUNISSINのAPOTが装着されているが、これは買っただけに付いていない物だそう。 ●6.マフラーはセンター出しのため、エキパイとフレキシブルジョイントのみが見える。リアのシングルアームは、マフラーを取り付ける必要が無いため、加工をしていることにも気が付かず。リアアームは古いタイヤを装着するためにリブ自体がオフセットされたタイヤをチョイスしている。 ●7.シートはワンオフで張り替えたバケット風が特徴的。同色ながらレシーを切り落しで分けたり、ステーナを入れる部分にこだわったり、カスタリ例にもこだわりの多い。 ●8.インナーにあるカバー部分にはステッカーをペタリ。Hello!Tushの要素を取り入れた4輪カスタムからのアイデアを落とし込んだ。黒い方や色々も、よく研究されているのだ。ちなみにインナーカウルは昨年新品に交換した。【インナーペイントも無いではありません！】 ●9.サレンサー下に見えるのがリアのインナーフリンダー。これはCBR1000RRのシングルシートカウルを流用しているというから、発想の豊かさが見取れる。これによってフレーム内部の汚りを防いでいる。このアイデアは、FUNTECHの北川さんによるものだ。 ●10.シートオープンで見えるマフラーと、ステンレスで製作された専用の収納スペース。マフラーはCBR1000RR用のアクラポヴェッチのカーボンリネアをカットし、ショート化。エキパイはフルタンクをFUNTECHにて製作されている。

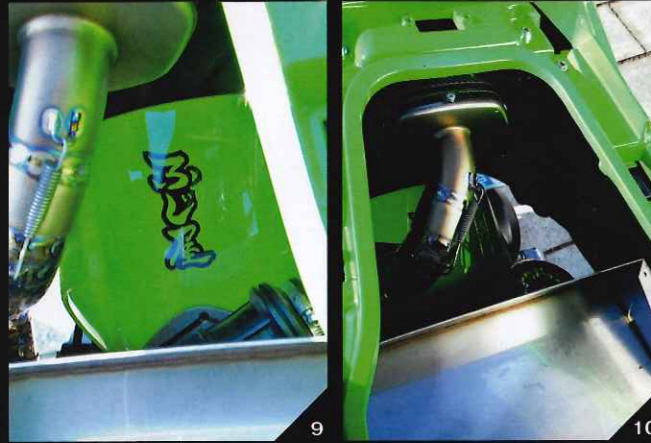


「シンプルでもカッコイイでもない…
見る者に渋いと思わせることがテーマ」

(SOLID)



1.テールライトを切りつな。LEDでウインカーとテールを一体化した時に、「センター出ししつ」を決めた。それから月日が流れ、念願のセンター出しに着手。CBR1000RR用のアクラポヴェッチが美しくもみられた。チアリと見えるカーボン柄に並々ならぬインパクトを感じますが、2.エアロは一切取り付けていないワケではありません。以前はスクリーンレスやリネアが主流でしたが、シートスクリーンをカットしたものに代えたオールドスクールな見た目から今じゃ斬新！ ●純正のヘッドライトは、レンズにリフレクターが備わっているが、それをクリアに変更。もちろん既存のクリアレンズの市販品はないので、これはブラ板を使用して自作したものだ。DIYならではの思い入れが印象的だ。 ●4.オークションで手に入れたレバーは、そのまま取り付けると高い位置に装着されてしまうので、ボネの裏面を削ってキリギリまで低くセットできるようにした。また取り付けるのに無く、どう取り付ければいいのか？ そんなコトワリが常態されている部分だ。 ●5.ブレーキは全然こだわりが無く、むしろノーマルのガンスタでもOKというFUJISAN。この車両にUNISSINのAPOTが装着されているが、これは買っただけに付いていない物だそう。 ●6.マフラーはセンター出しのため、エキパイとフレキシブルジョイントのみが見える。リアのシングルアームは、マフラーを取り付ける必要が無いため、加工をしていることにも気が付かず。リアアームは古いタイヤを装着するためにリブ自体がオフセットされたタイヤをチョイスしている。 ●7.シートはワンオフで張り替えたバケット風が特徴的。同色ながらレシーを切り落しで分けたり、ステーナを入れる部分にこだわったり、カスタリ例にもこだわりの多い。 ●8.インナーにあるカバー部分にはステッカーをペタリ。Hello!Tushの要素を取り入れた4輪カスタムからのアイデアを落とし込んだ。黒い方や色々も、よく研究されているのだ。ちなみにインナーカウルは昨年新品に交換した。【インナーペイントも無いではありません！】 ●9.サレンサー下に見えるのがリアのインナーフリンダー。これはCBR1000RRのシングルシートカウルを流用しているというから、発想の豊かさが見取れる。これによってフレーム内部の汚りを防いでいる。このアイデアは、FUNTECHの北川さんによるものだ。 ●10.シートオープンで見えるマフラーと、ステンレスで製作された専用の収納スペース。マフラーはCBR1000RR用のアクラポヴェッチのカーボンリネアをカットし、ショート化。エキパイはフルタンクをFUNTECHにて製作されている。



MaxZone mini
10月27日大会総合ランキング

名前	排気量	車名	最高速 (km/h)
山ノ王子 物部RS166	125	RS125R	186.690
FIX	250	KS50	179.336
FIX	250	TDR50	176.586
トク・須田	250	Ninja250R	175.496
ゴロ 法師モーター	125	モーター	160.882
モーター	125	モーター	157.137
BLUE POINT	125	KSR110	152.585
T's Racing/小林	125	モーター	152.435
A.A.O!	125	CB125	150.754
T's Racing/奈良橋	125	NSR改	149.357
小田原キョウジ	125	NSF100	147.723
Bob RACING	125	NSF100	147.662
NECTO pro racing	125	NSF100	146.979
QMA DESIGN	125	NSR80	145.572
新海中央部品	125	NSRモーター	144.675
トク・須田 鶴見店2	125	モーター 100	142.838
A's TRICK+AKI	125	NSR80	142.236
BLUE POINT	150	KSR110	142.068
マツノNちび96	96	NSR mini	141.565
QMA DESIGN 2	125	NS50F	141.417
FIX/YSR50	200	YSR50	141.361
らっしゅ-わかず	125	XR100モーター	140.096
モーター/山ノ王子	125	APE50	139.643
四魂racubg/	80	NSR80	139.301
RTうさぎのすけ	125	KSR110	139.014
yamax racing2	125	モーター 100	138.942
加ハ王子2	125	NSF100	137.527
BRE 2号	124	NSR50改	137.021
八幡通夫	100	モーター	137.004
モーター/3	124	モーター	135.627
港北測量&M's レジ	100	モーター 100	135.000
yamax racing1	125	モーター 100	134.865
モーター/1	119	モーター 100	134.781
モーター/4	115	NSR改	133.432
yamax racing3	125	XR100モーター	133.185
モーター/5	125	モーター 100	132.580
新海中央部品	106	DAX	132.402
城西フジノクラブ	106	ゴリ	131.772
A's TRICK+FUJIKU	80	NSR80	131.052
月ガガ 4minの7 1	143	KSR110	130.656
予備B	-	-	130.608
モーター/2	80	NS50R	130.340
Team taku8KN1	124	モーター	129.605
FUN TECH	100	モーター 100	128.633
トク・須田	100	XR100モーター	128.342
Audit Works	95	ドリル-50	127.886
FIX/TDR50	80	TDR50	127.644
BRE 1号	124	モーター	127.059
月ガガ 4minの7 2	143	KSR110	126.567
BRE 3号	124	モーター	126.493
四魂racubg	100	モーター 100	126.390
加ハ王子5	122	グランド アップ	126.390
トク・須田 鶴見店1	124	NSF100	126.198
四魂racubg	125	CBR125	126.065
月ガガ 4minの7 5	50	NSR50	125.889
四魂racubg	80	NCR80	125.669
モーター/1	80	NSR80山根	125.611
モーター/2	125	CB125JX	125.101
BRE 6号	80	NSR改	124.942
四魂racubg	80	YZ80モーター	123.669
おきいさん	125	APE50	123.655
KAZU FACTORY	115	APE100	122.227
BOB RACING1	49	NSR滑川	121.403
新海中央部品	115	NSR APE	121.103
BRE 5号	150	ゴリ	120.778
T's Racing/山田	106	モーター	120.415
加ハ王子4	49	NSR50	120.267
四魂racubg	80	NSR80	119.734
四魂racubg	100	NSF100	119.668
トク・須田	110	KSR110	118.903
四魂racubg	115	XR100モーター	118.162
Bob RACING3	100	NSF100	117.404
トク・須田 鶴見店	100	NSF100	117.289
トク・須田 千歳21号	115	NSF100	117.137
月ガガ 4minの7 3	50	NSR50	116.757
モーター/2	115	XE75	116.757
Team taku8KN2	-	ゴリMAX	116.631
モーター/3	100	XR100モーター	116.404
ゴリ/ラッキー	100	NSF100	115.533
加ハ王子6	181	アックスリート	115.446
BIKESPO/高野がん	100	XR100モーター	115.311
モーター/5	100	NSF100	115.249
A.A.O!!	-	NSR50	113.972
BRE 4号	82	モーター 50	112.360
月ガガ 4minの7 4	50	NSR50	111.697
加ハ王子7	113	スーパースポ ZR	111.478
モーター/2	100	APE100	111.134
トク・須田/KSR110	0	KSR110	110.894
新海中央部品	88	ゴリ	110.667
T's Racing/大澤	115	モーター	110.509
モーター/6	100	NSF100	110.26
モーター/2	-	モンキー	109.924
モーター/6	100	モーター 100	108.641
モーター	100	モーター 100	108.358
モーター/7	125	モーター 125	107.399
予備C	-	-	106.216
モーター/4	50	NSR50	105.830
加ハ王子1	75	4st JOG	98.612
モーター/4	125	GSR125	98.468
モーター/7	110	KSR110	98.155
モーター/1	-	モーター	97.649
加ハ王子3	120	Today	97.096
BS.M.C	57.4	GB-1	94.044
モーター/3	50	NS50F	88.329
川越2りんかん	79	カクメ-80	87.655
キコ	63	JOG ZR	83.591
トク・須田-キコ	50	アジ タンGB1	80.030
予備A	-	-	64.374
A's TRICK+A.A.O!	80	RS80	49.809

まずはノーマルの性能を確認



88.329 km/h MAX SPEED
今や懐かしいホンダのフルサイズ2スト原付スパーツ・NS50F。モトストレッタの持ち込んだこのマシン、実はCDI以外はノーマル。カスタムを前に、ノーマルの性能を確認するために持ち込まれたもの。改造したら何キロでるのかな？

ヤマハのビジバイの底力



87.655 km/h MAX SPEED
「ヤマハのビジバイの底力をお見せします」とタウンメイト80でエントリーした川越2りんかん。エンジン自体はあくまでノーマルのまま、ワンオフのBRDマフラーなど吸排気系チューンのみ。シャフトドライブなので減速比も変えられないというハンデを負いながらも、富士のストレートを疾走して87km/hを記録した。

2010年大会の開催が決定!!
さらなる好記録に期待!!

気になる日程は
5月、8月、10月の計3回の開催を予定!



毎回100台前後のミニバイクが集まり、富士スピードウェイのメインストレートで、最高速アタックにチャレンジしているのだ。

最新2種スクで最高速アタック一番乗り



115.446 km/h MAX SPEED
ヤマハから登場したばかりの最新4スト原付2種スクーター・アックスリートでカムイ八王子がエントリー。スペシャルヘッド181ccキット、前後サスなどBMF製パーツが組み込まれ、いきなり115km/hという好記録を残した。

4スト50ccスクーターの可能性



83.591 km/h MAX SPEED
現行の国産50ccスクーターは今や全て4ストに。そんな4スト50ccスクーターにも力を入れているキタコ、ストリートチューン仕様の4ストJOG-ZRを走らせた。63ccボアアップ、FIコントローラーのI-MAP、パワードライブキットなどの装着で83km/hと、大幅なパワーアップ効果を証明してみた。

予告

詳細は間もなく発表予定

気になる2010年シーズンのMAX ZONE miniだが、開催がほぼ決定した。5月、8月、10月に開催の予定で、現在は詳細な日時についてのツメ段階の交渉中。最高速アタックにチャレンジしたいと思っているキミ、今からマシンを作り上げよう。

計測結果は、ライブでモニターに表示される。思うような記録が出なかったら、セッティング変更だ。

進化を続けるパンダカウルAPE!!

DE耐仕様でもここまで行ける!

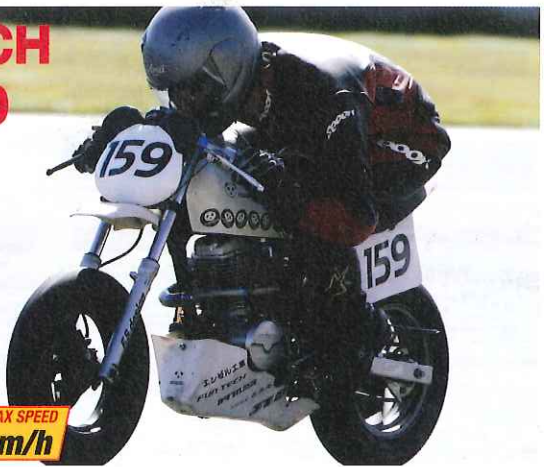
前回のMAXZONEにも参加して126km/hを記録した、FUNTECHのDE耐仕様APE100レーサー。最大の特徴である「パンダカウル」もそのままに再挑戦した今回は、見事に自己記録を更新する128km/hをマーク。DE耐レギュレーションの制限より小さめのキャブ、手作りのマフラーといった独自のチューンが効いているのか?

TUNING POINT 車両装備パーツ一覧

エンジン	キタコSEヘッド99cc
マフラー	自家製マフラー
キャブレター	ケイヒンPC20
CDI	デイトナデジタルCDI
その他	ディスクブレーキ化 前後NSRホイール

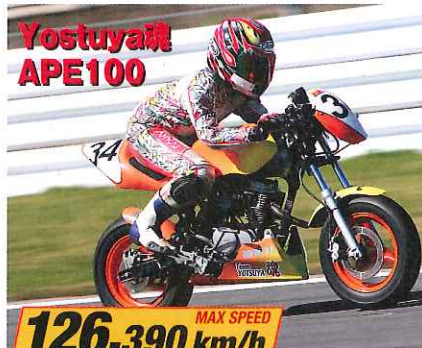
FUNTECH APE100

128.633 km/h MAX SPEED



今回最年少で最軽量のライダー?

キタコSEヘッド99ccエンジン搭載のDE耐仕様APE。写真を良く見ると、ライダーが小さい!女の子が乗ってたそうです...体重の軽いライダーもチューンのうち?



126.390 km/h MAX SPEED

FSWミニろく参戦マシン

富士のミニ耐久・FSWミニろくに参戦しているyamax racingは3台のマシンを持ち込んだ。このXRはヨシムラパーツで固めた125ccエンジン仕様。チクモト製スイングアームも装着。



133.185 km/h MAX SPEED

Speed 最速王 KING!!

これが激戦の125ccを制した最速マシン!!



160.882 km/h MAX SPEED

ゴルゴ法師 モンキー

前号でも紹介した、125ccマシンとして160km/hを初めて達成したゴルゴ法師モンキーを改めて紹介しておこう。フレームもエンジンもモンキーがベースだが、ワンオフのフルカウルをはじめ、あらゆる部分に最高速アタックのため独自のアイデアが盛り込まれているのが特徴。しかも基本的に個人で作り上げたというのだから驚きだ。

TUNING POINT 車両装備パーツ一覧

エンジン	武川DOHC124ccキット+スペシャル加工
キャブレター	ケイヒンFCR33
マフラー	法師エンジニアリング最高速スペシャル



125 JUNKY

EXCITING 125 SCOOTERS FRONT LINE



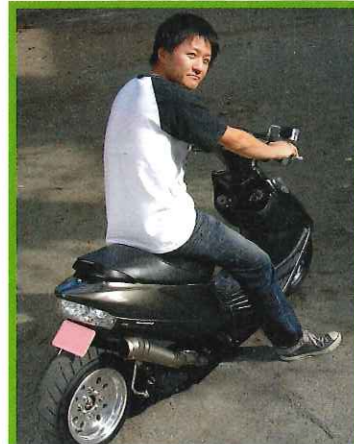
1.ハンドルまわりはいたってシンプルに。メーターはTAKEGAWAのLCDメーター。オーナー曰く、「V125のベストアイテムですよ」とのことでした。2.シートはラグジーにVERSUSでおこなった張替え。3.エアサスのメーターとスイッチは「G」タイプならではのフロント収納に綺麗におさめた。4.マフラーはFUN TECHワンオフ。チタン輪切りのGPルック。ナニゲにラグジーにも合うんです。5.こちらはエアクリ。ロンホイをすることでルックスが「スカスカ」になってしまうのを嫌い、管長を長く取ってスペースを埋めた。芸術的なセンスの持ち主。6.V125オーナーなら誰もが気になる!? アンダーのフレーム。ここを見えなくするためにカバーをワンオフで製作した。ノーマル然とした完成度は秀逸。7.ローターもワンオフ! プラスμ製のローター&サポートはV125初! いったいいくらかかるのやら…。8.エアサスのシリンダーはDC-AIR。aprから専用部品が出ていなかった時に、ストローク量を稼ぐため、ロングシリンダータイプをチョイスしていた。9.ロンホイ量は200mm。ホイールは5.5Jを履く。ホイールが太くなる分、エンジンをオフセットさせてタイヤセンターを出すのが、それらはFUN TECHが作業を担当している。

Specification

●エアロパーツ…アンダースポイラー=FUN TECHワンオフ ●吸排気…マフラー&エアクリ=FUN TECHワンオフ ●ハンドルまわり…ミラー=VERSUSワンオフ、メーター=TAKEGAWA LCDメーター ●足まわり…前後サス=FUN TECHワンオフエアサス、Fホイール=メッキ加工、Rホイール=5.5J流用、Fタイヤ=ミシュランS1 100/90、Rタイヤ=ミシュランS1 130/70 ●ブレーキまわり…Fキャリア=ベルリンガー2POT、Fサポート=プラスμワンオフ、Fローター=プラスμワンオフ225φ ●駆動系…プリー=DAYTONAハイスピードプリー、DAYTONA強化Vベルト ●電装系…ヘッドライトSOLAM HID、ウィンカー&テール=KITACO ●その他…シート=VERSUS加工、Rフェンダーレス=FUN TECH、20cmロンホイ加工=FUN TECHワンオフ、ガンメタオールペン、エンジン塗装

Owner / SHIBATA

「このV125はドレスアップ用です。」というオーナーのSHIBATAさん。この他にチューニング専用のV125も所有し、さらにMF06などもカスタムしているスクータージャンキーでもあります。



ロンホイ・エアサス
フラットなリア
これが現在最強の
V125!?

ハードコア&ラグジーで新たなブームの予感!?
新車価格が20万円ほど…。アドレスV125の魅力はその安さだろう。安いからタメ…というわけではない。クラス最強の発進加速を誇るハイパワーも人気の秘訣なのである。
なんてカタイ説明は抜きにして、そこら辺をとにかく走りまくっているV125だけども、ここまでの完成度を誇る車両は、発売以来見たことが無かった!! オナーのシバタさんは、コレの他にチューニング用のV125を持っていたり、VERSUSのデモ車のスカフやMF06フォルツァも所有しているというの、何よりの強みです。というのも、やっぱりビッグスクーターのフルカスタムを経験しているという、アイディアとセンスがこのV125に活かされているというわけ。ラグジーもスポコンも、ハードコアも見てきただけに、「イイトコドリ!!」なんです。
他とはちょっと違う、ハードでゴージャスな車両。ハードカスタムを担当したシブタ、ファンテックと二人三脚で造られてきたこだわりのポイントとは、今後のV125カスタムにとどまらず、原付2種スクーターの指針となるはずだ。

Photo/能勢博史 Text/金田亮
Special Thanks/FUN TECH
住所/東京都杉並区方南2-4-9モナークマンション方南第2 A-103

2010 エントリー車 PART 1

RAGE ALL SNAP

SCOOTER TRIBE presents NATIONAL CUSTOM SHOW VOL.2

全国のカスタム猛者が集結した、2010年のRAGE。ここではエントリー車の全てをご紹介します!
今後のカスタムの参考ともなる、至上最強車両が一気に見れちゃうのはTRIBEだけです!!

Photo 能勢博史、沖野吾、木村圭吾

時代に逆行したスーパーハードな4HC

会場でショップ関係者の評価が非常に高かった1台がこの4HC。間違にホイールベースを伸ばしている最近のカスタムとはまるで異なり、カウル内に全て収めつつ限界までの低さを追求! 魅せるためのフレームワークや自作の数々は受賞も納得させる通好みの手法が全開といった感じだろう。

BEST of Majesty 1 | Owner / 林田龍司
YAMAHA Majesty 4HC



SPECIFICATION ●エアロ...DRESTトップフェイス、Fフェンダー取り付け位置変更、アンダーカウルカット ●吸排気...ワンオフカウルインマフラー、K&Nエアクリナー ●ハンドル...BSC Z100ハンドルバー、ホスト他車種用流用、アトラSMCスピアークリップ、Gマジ純正スイッチBOX、MOON GTミラー、WILD STYLEファンメーター ●足まわり...FUNTECHワンオフエアサス、リアショットサス、リアY'S GEAR1313インチ ●ブレーキ...NISSIN6POTキャリパー、サンスターディスクローター、Rディスク化、JAY BRAKEマスター&レバー、パワダーコート加工 ●電装系...B.O.M.オリジナルヘッドライト&USコーナー風ウインカー、FJデザインLEDテール ●その他...ワンオフシート、TOP MOSTステップマウント、純正ヘラライトクリスタル加工、リアカウル加工、サベイト、OVERアルミシングアーム、その他機関・フレーム加工=FUNTECH



シートもカウルも取っ払い、内部を魅せる...ミニトラックのベッド風カスタムはこれまでのスクーターには見られなかった手法。

ハンドルまわりはただのブラックアウトではない。マスターシリンダーからスイッチ、グリップまで全て計算されたパーツチョイス!!



BEST of Majesty 4 | Owner / 鳥居優紀
YAMAHA Majesty 4D9



2本出しマフラーが強烈! サイレンサーはスーパースポーツ系の定番MICRON。独特の形状でベストマッチさせたのは千葉のFIZEだ。

ハイセンス&グッドバランスな4D9

FRPシートも含め、全てをボディ同色で統一したクールなスタイリング。部分的なメッキの使い方など、大人の4D9と表現できる1台。ボディがシンプルな分、マフラーの主張がいさかき際立つが、徹底した細部の作り込みなど、まったくの隙を与えないフィニッシュがポイント!

BEST of Majesty 9 | Owner / 曾根桂一
YAMAHA Majesty



魅惑のマジョーラ&フルBELLは新鮮!

オーソドックスなフルBELLスタイルのマジェは、エアロで主張しながらも、ボディからタイヤが飛び出ないようなコンパクトスタイリングに気を遣っている。ヘッドライトにはFUGAプロジェクターを2個埋め込み、CCFLリングも使うなど、長年カスタムを続けているオーナーにふさわしい細部の造りこみは注目必至だ!

BEST of Majesty 10 | Owner / 田中良樹
YAMAHA Majesty 4D9



ストリートラグジュアリーの王道!

バランスの良いロンホイと、ブラックメッキの2トーンで仕上げた4D9は、大人のラグジュアリースタイルに相応しい完成度! しかし、これはカスタムの途中段階だそうで、次回RAGEまでに大幅に変更されるとか!? 今後も期待の1台として注目しよう!!

BEST of Majesty 5 | Owner / 藤原充
YAMAHA Majesty 4HC



峠も攻めちゃう激低激走マシン!

低すぎず、長すぎずのグッドバランスな車体には、ドリフト専用車をモチーフとしたデカールをドロップ。それだけに装着したパーツは全て機能美でチョイスするなど、ブレないカスタムスタイルとして必見。流行に左右されないカッコよさというのは、このような車両のことを言うのかも!

BEST of Majesty 8 | Owner / 鈴木拓磨
YAMAHA Majesty



片持ちサスのナニワ・ハードコア!

本誌で表紙を飾ったインターセプトで開発されたマジエ。シンプルなルックスながらリア片持ちサスなど、見た目以上のインパクトが光っていた1台。良く見ないと気付かれないほどの細かいカスタムは、通を唸らせるスタイリングだ。

BEST of Majesty 6 | Owner / 北田尚樹
YAMAHA Majesty



アクラボヴィッチのサイレンサーはレーシングな雰囲気! しかも2本出しをオフセットしたオーナーとLOTAUSのセンスに脱帽です。

コンパクトスタイルの王道系!!

低さ・長さはいずれも絶妙なコンパクトスタイリングで、走りも追求したマジエスティ。そこにメッキパーツをはじめ、オーディオ・モニターといったドレスアップもプラスし、手抜きは無し!

SPECIFICATION ●エアロ...LOTAUSフェイス&サバカナル&リアスポイラー、BELLアンダーカウル、カムストックリアアンダーカウル ●吸排気...アクラボヴィッチワンオフ2本出しマフラー ●ハンドル...LOTAUS417ハンドル、アトラSMCクリップ、カムストックステルミラー、スプロコーションメーター ●足まわり...apr DC-AIRエアサス、Y'S GEAR1313インチホイール ●ブレーキ...brembo4POTフロントキャリパー、サンスターディスクローター、brembo2POTリアキャリパー ●駆動系...DAYTONAノイズビードプーリー&強化ベルト ●電装系...LOTAUS JEWELRY HID、GODウインカーバルブ、ワンオフ流れるLEDテール、カゴツヴェリアオーディオ、ケンウッドスピーカー ●その他...LOTAUSクリスタルシート、ワンオフ38cmロンホイ、マジョーラオールペン

ポップでスーパーハードな1台!

オーナーの細かなこだわりがギッシリと詰まったフォルツァ。ブレーキまわり、フラットシートとハードカスタムの王道を突っ走りつつも、純正をワイド化にするためのリアの造り込みはバツと見じゃ気付かない完成度!!

インターセプトのオリジナル大径ローターをセットしたフロントまわり。キャリパーもベルリンガーの6POTで完璧フィニッシュ!!



BEST of FORZA 38 | Owner / 加藤孝宣
HONDA FORZA (MF08)



BEST of FORZA 41 | Owner / 近藤孝哉
HONDA FORZA (MF08)

新たな2トーンの提案!

実はまだまだUN-FINISHEDなこのMF08は、次回のRAGEまでに完成するという予告付きでエントリー! フェイスとインナー同色で2トーン化する斬新な発想がGOOD! 今後のアップデートが特に気になる1台なのだ!



BEST of FORZA 44 | Owner / 佐々木徹
HONDA FORZA



カラーリングが見所の爽やか車両がランクイン!

ホイールの塗り分けが斬新なMF10フォルツァ。オルタネイティブが手掛け、シンプルに乗って楽しめる1台というポイントが高い。オールホワイトに差し色のイエローがハマリ、独特な爽やかさを演出していました!

BEST of FORZA 40 | Owner / 久保井総一
HONDA FORZA



ほぼワンオフづくしの究極のMF06

CBR1000RRの純正メーターを移植し作動も完璧にセットアップ。ステアをワンオフしたマスタータンクなど細が細かい!

ソリッドなフロントフェイスの造り込みで、非常に完成度の高いMF06フォルツァ。抜け目の無いカスタムで、06ファンを唸らせる1台であることは間違いない!! 手を加えたバーバラホイールサイクルにて、さらに進化していくぞ!! 次回も楽しみに1台だ。



BEST of FORZA 3位

BEST of FORZA 42 | Owner / 古川奈瑠美
HONDA FORZA (MF08)



SPECIFICATION ●エアロ...MAD SPEEDフルエアロ ●吸排気...FUNTECHワンオフマフラー、DAYTONAエアクリナー加工 ●ハンドル...DAYTONAクリップ、カムストックステルミラー ●足まわり...フロントフォーク他車種流用、前後MADHOPPERエアサス ●ブレーキ...ベルリンガーキャリパー、ZOOM大径ローター、NISSINスターシリンダー ●電装系...PIAA HID、ワンオフウインカー&テール ●その他...シート張り替え、FUNTECHフレーム加工

クラス紅一点ながらも3位に輝いた珠玉のクオリティ

女性ながらガールズクラスにはエントリーせず、男だらけのFORZAクラスで闘ったというオーナー。超シンプルな佇まいとは裏腹の細部は、フロントフォークも他車種を流用する徹底ぶり!! フォルツァオーナー必見の1台なのだ!



フルメッキのハンドルまわりは、超硬派な雰囲気満点。マスターシリンダーも分解しメッキをかける念の入れようがスゴイ!!

ZOOMの人気商品でもあるディスクローターは300φと超大径! ベルリンガー6POTキャリパーのインパクトと合わせ、最強な足まわり!

タイプの違うマジョーラで武装!

同じマジョーラであっても、フロントは塗料で、リアはアンドロメダブレークを使うという斬新なペイントワークが見え、イベントはSHOW UP PROGRESSが担当している。そしてイベントに負けないトータルバランスに優れたエアロ&ロンホイの長さなども絶対に参考にすべし!!

BEST of SKYWAVE 60 | Owner / 鶴岡勇輔
SUZUKI SKYWAVE 6144



43スカブ定番のカスタムサンプル

伸ばし過ぎないロンホイに、SタイヤのセットとCJ43スカブでは永遠の定番ともいえるスタイルで、トータルバランスを重視して造り込まれたそう。なんとフロントトップフェイスは自作! ショップやメーカーに頼らず、なるべく自分でイジるといふDIYスタイルはお手本にしたいところだ。



リアホイールにペイントをプラスして四輪ホイールのようなルックスになっている。このアイデアは結構使えるかも!!

BEST of SKYWAVE 60 | Owner / 大倉要
SUZUKI SKYWAVE 6144